

第4章 新市まちづくり計画の基本方針

(1) 基本理念

世界にひらく、人と自然・歴史・文化がふれあう都市

“霧島山系から錦江湾の鼓動が時空を超え、躍動する新都市”



新市は、陸・海・空の交流ネットワークの地域特性を最大限に活かし、霧島山麓の豊かな自然地域、農業と観光が盛んで歴史的資産のある田園地域、錦江湾沿いの平地部にある先端技術型産業や住宅地が集積した都市地域で構成されています。

現代社会は、人・もの・情報の流れが一段と多様化し、増大する中で、そのネットワーク機能や受発信機能の確保充実が地域力向上の鍵となっています。

このようなことから、新市では、鹿児島空港を拠点として世界を視野に入れた新しい都市づくりを進めるとともに、人と自然・歴史・文化などさまざまなふれあいのある調和のとれた田園文化都市と、産業がバランス良く配置された多機能都市の形成を図りながら、快適で愛着の持てる安心して暮らせるまちづくりを進める方針のもと、「世界にひらく、人と自然・歴史・文化がふれあう都市」をまちづくりの基本理念とします。また、霧島山系から錦江湾までの新市内にある多彩なポテンシャル（潜在力）が、未来に向かって進化しながら、新しい地域力となり、躍動する都市づくりを進めるために、“霧島山系から錦江湾の鼓動が時空を超え、躍動する新都市”を基本理念のサブタイトルとします。

※ 「地域力」とは、地域の自然や歴史文化というような財産と特性を踏まえた地力（本来持っている実力）のこと。

※ 「進化」とは、地域の潜在力が長い年月の間に変化し、さらに発展していくこと。

この基本理念には、次のような視点が含まれています。

● 「世界にひらく」ふれあい都市づくりを目指す

鹿児島空港を拠点として世界を視野に入れた新しい都市づくりを進めるとともに、国際交流を積極的に進める都市づくりを目指します。

● 「人と自然・歴史・文化」がふれあう都市づくりを目指す

住む人と訪れる人が、自然・歴史・文化などにふれあうことのできる調和のとれた田園文化都市づくりと、産業がバランス良く配置された多機能都市づくりを目指します。

● 「霧島山系から錦江湾の鼓動が時空を超え、躍動する」新都市づくりを目指す

新市は、霧島山系から錦江湾まで含んだ地域です。

※ 「鼓動」とは、地域内の多彩なポテンシャル（潜在力）を意味します。

※ 「時空を超える」とは、潜在力が、時間と空間を超えていくことを意味します。



(2) 将来像

人と自然が輝き、人が拓く、多機能都市の創造

基本理念に掲げた「世界にひらく、人と自然・歴史・文化がふれあう都市」をどのような姿に創り上げていくか、その目標を定めたものが「新市の将来像」です。

新市のまちづくりは、南九州の陸・海・空の交流拠点都市として、世界を視野に入れた、新市の持つ豊かな自然、観光資源、歴史的資産、産業など多彩な地域特性を最大限に活かしたものとし、“人”を主役にとらえ、住民一人ひとりが、あるいは地域コミュニティがお互いの信頼関係を築き、住民と行政が協働・連携することにより、自立性の高いまちづくりを進めていきます。

さらに、多種多様な機能が調和した新しい都市の創造を目指していきます。

このような考え方を基本にし、「人と自然が輝き、人が拓く、多機能都市の創造」を新市が目指すべき将来像とします。

新市の将来像を実現するために、次のような7つ（7市町、7分野）のキーワード（躍、癒、夢、支、交、協、絆）がふれあう都市づくりを将来像の柱として設定します。

※ 「コミュニティ」とは、一般的に、人々が共同体意識を持って共同生活を営む一定の地域、及びその人々の集団のことをいいます。地域社会。共同体。新市における地域コミュニティとは、自治会組織、ボランティア団体、NPO（民間非営利団体）などを指しています。

1 活力ある都市づくり（社会基盤）

快適で魅力的な都市機能の充実と安全で活力ある都市づくり

新市は、陸・海・空の交通体系が整った南九州の交通の要衝であり、多種多様な産業が盛んな地域です。これらの特性を活かして、快適な多機能都市を創造していくと同時に、地域内外とのふれあいを活性化させ、県央地域の持つ個性と魅力を九州から日本全国へ、世界へ発信する情報ネットワークの整備を行い、災害に強い安全で活力ある都市づくりを目指します。

“新市が躍動するイメージにします。”

2 自然にやさしい都市づくり（生活環境）

自然と共生し、誰もが安心して住める都市づくり

新市は、我が国で最初に国立公園に指定された霧島屋久国立公園を有し、風光明媚な自然に恵まれており、その自然を背景にして地域の歴史や文化、伝統といった風土に根ざした生活が培われています。この貴重で実り豊かな自然をいつまでも体感できるよう、自然にやさしい都市づくりを目指します。また、防災・防犯体制の強化に努めるとともに、定住促進を図り、誰もが安心して住める都市づくりを目指します。

“気持ちや心が休まる癒しをイメージします。”

3 育み磨きあう都市づくり（教育文化）

育まれてきた教育文化の継承と生涯学習、青少年の健全育成を推進する都市づくり

新市は、多くの歴史的文化遺跡と伝統に支えられた優れた文化を保有しています。これらの文化遺産等の継承と地域の豊かな自然を活かした新しい文化を創造するとともに、地域に根ざした特色ある学校教育活動やすべての世代が参加できる息の長い生涯学習を推進します。併せて、青少年の健全育成を推進し、人と人との絆を深める、育み磨きあう都市づくりを目指します。

“すべての人が将来に夢を持てるイメージにします。”

4 たすけあい支えあう都市づくり（保健福祉）

すべての人が安心して暮らし、共にたすけあい支えあう都市づくり

新市は、住民が安心していきいきと暮らすために、地域福祉等の推進と救急診療体制の充実、また心身ともに健康な生活が送られるように生活習慣病の予防や早期発見、早期治療に向けた住民の健康づくりの支援体制を進めます。又、安心して子供を産み育て、心豊かに子育てするために子育て環境の整備を進め、住民・行政・地域が一体となった、たすけあい支えあう都市づくりを目指します。

“すべての人が互いに支えあうイメージにします。”

5 産業ふれあいの都市づくり（産業経済）

多種多様な産業が調和した産業ふれあいの都市づくり

新市は、日本でも類のない自然に恵まれた地域であり、良質な温泉を有する、観光資源の宝庫です。同時に、茶、園芸、畜産などの農林水産業、先端技術型産業を中心とする民間企業や魅力ある商店等が存在しています。この地域観光資源を有効に活用しながら、観光と農林水産業・商工業が調和した、ふれあいをテーマとした産業ふれあいの都市づくりを目指します。

“人や産業のふれあい交流をイメージします。”

6 住民参画の都市づくり（コミュニティ）

人権を尊重しあい、住民が主体的に参画し、行政と協働する都市づくり

新市は、それぞれの地域の実情に応じた施策の展開に対する意向表明の方法として、地域審議会を置くこととし、都市づくりの担い手である住民が主体的に関わり、積極的に役割をはたしていく住民参画のまちづくりを推進し、住民と行政が協働する都市づくりを目指します。

また、国際化に柔軟に対応できる人材育成や地域のリーダーとなる人材発掘を促進し、空港を拠点にして国際交流を積極的に推進する都市づくりを目指します。

さらには、お互いが人権を尊重しあい、思いやりのある人にやさしいまちづくりを目指すとともに、男女共同参画社会の形成を促進します。

“住民と行政の協働をイメージします。”

7 健全な行財政組織の都市づくり（行財政）

健全で自立した行財政運営と地域拠点（旧市町）の連携による都市づくり

新市は、住民に開かれた行政の推進や質の高い行政サービスの提供を積極的に行いながら、地方分権時代に対応可能な健全で自立した行財政運営に基づく都市づくりと、地域拠点（旧市町）の連携による都市づくりを目指します。

“旧市町間の強い絆での結び付きをイメージします。”

(3)まちづくりの基本方向

1) 新市まちづくりの体系図

【まちづくりの基本理念】

「世界にひらく、人と自然・歴史・文化がふれあう都市」

“霧島山系から錦江湾の鼓動が時空を超え、躍動する新都市”

【新市の将来像】

人と自然が輝き、人が拓く、多機能都市の創造

【将来像を実現する7つの柱】

新市の将来像を実現するために、次の7つ（7市町、7分野）のキーワード（躍、癒、夢、支、交、協、絆）がふれあう都市づくりを将来像の柱として設定し、各分野別の振興方向として示しています。

